

03 わが社のかけがえのない戦力（障がい者）

皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、副島淳がお届けします。タイトルは「わが社のかけがえのない戦力」です。

5

福岡市の水産加工会社「福岡丸福水産」では、障がいのある人が多く働いています。この会社は長年、人手不足に悩み、一時は廃業を検討していました。そんな状況を変えたきっかけは、軽度障がい者の学びから仕事に就くまでを一貫して支援するB8Cグループの一員となったことでした。

10

グループ代表の島野廣紀さんは、以前、「障がいのある人と働くのは難しい」という先入観を持っていました。ある日、福祉施設を見学したとき、誰が支援員で誰に障がいがあるのか見分けがつかず、皆が生き生きと働いている姿に出会いました。

15

島野さんは、障がいのある人に対する自分のイメージが実際とは全く違うことに気づき、「環境を整えればきちんと働ける人がたくさんいる」と考えました。

20

福岡丸福水産では、障がいのある人が働きやすい環境にするために作業工程を見直し、それぞれの能力や適性に応じて

25 役割を分けました。体力のある人は荷物運び、根気強い人は
同じ作業を繰り返し返すラベル貼り、集中力がある人は丁寧さが
求められる箱詰めなど、一人一人が力を発揮しています。分
からないことはタブレットですぐに確認できるようにするな
どの工夫もしました。

30 仕事にやりがいを見出し、自分も先輩社員のようになりた
いと夢を持つ人もいます。仕事を続ける人が増えたため、深刻
な人手不足の解消につながりました。

35 ある現場の社員は、次のように話します。「障がいのある人
と一緒に働くなかで、それぞれの力や個性に気づきました。
サポートするときは一方的に助けるのではなく、一緒に考え
ていくことが大切だと実感しています。むしろ自分たちの方
が学ばせてもらうことが多いです。」

40 島野さんは「個人個人と心から向き合い、その特性を
最大限に見出すことで、わが社の大事な戦力になりました」
と話します。より安心して仕事をしてもらうため、障がいの
ある人の正社員登用も始めました。いずれは、どこでも通用
する働く力を身に付け、さらに成長できることを目指してい
ます。今後も会社の頼れる人材として、いっそうの活躍が期待
されています。

（本文927字）